

1994年3月15日発行 1975年2月28日第3種郵便物認可  
毎月1回15日発行  
定価／150円  
年間購読料／2,000円（送料込）

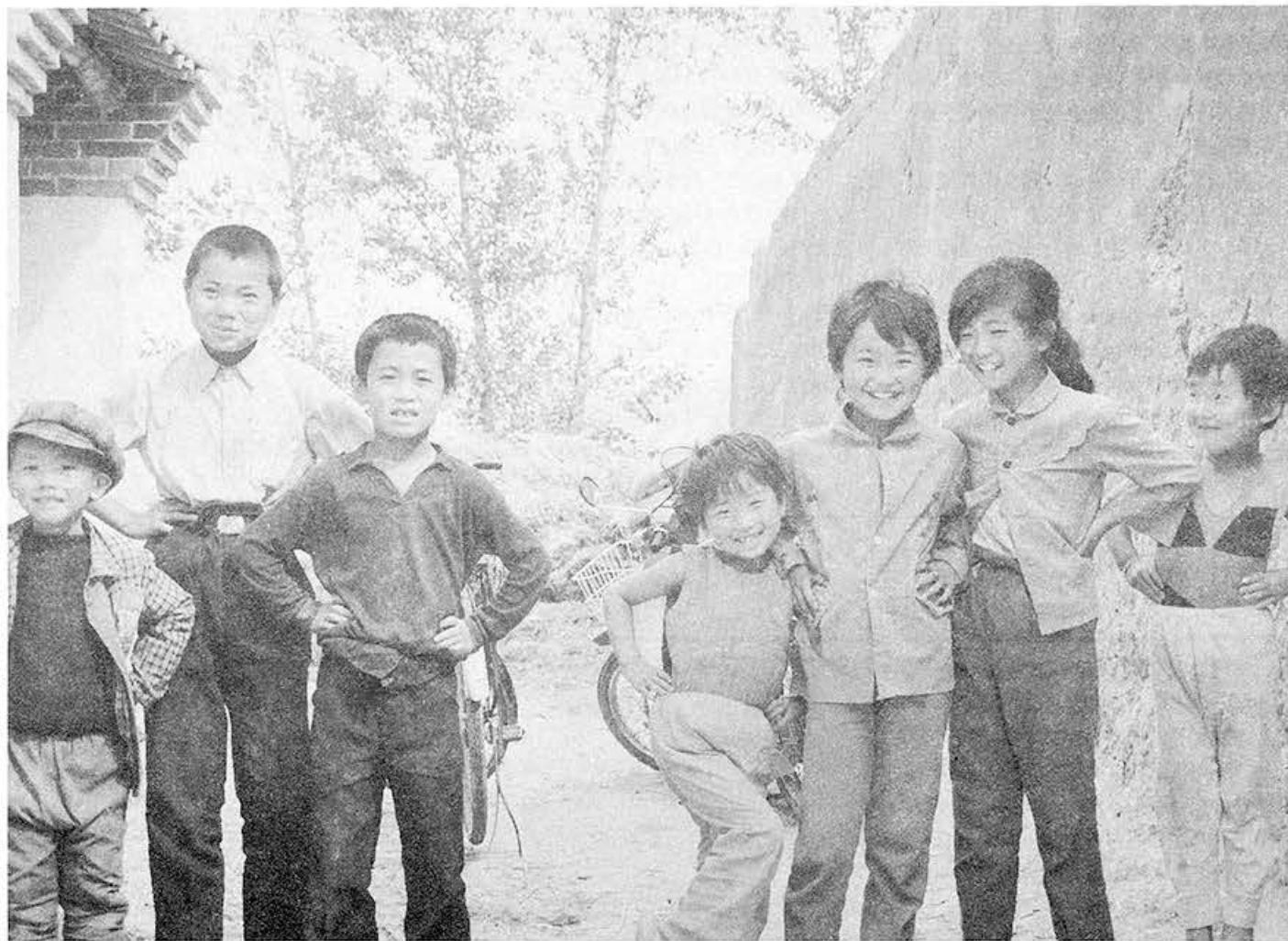
編 集／緑の地球ネットワーク  
**Green Earth Network**

大阪市港区市岡元町3丁目9-16 西建ビル（〒552）  
Tel. 06-583-1719 Fax. 06-583-1739  
郵便振替 大阪4-128465  
COM21 通巻318号 発行/COM企画室

# 緑の地球 **GREEN EARTH**

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

- ネパール・ムスタンで緑化協力を開始……………P2
- 北海道・アイヌモシリの森林回復にむけて……………P4



1994・3

**24**

# ネパール・ムスタンで緑化協力開始！

GEN代表世話人 佐野 茂樹

ムスタン王国を含むネパール・ムスタン郡各地を訪ねたのは93年6～7月のことでした。その際、カリガンダキ河沿いの小さな村・サウルで緑化協力の合意書を交わしました。合意内容を実現するために、私は昨年12月以来、ネパールに滞在中です。サウル、ボカラ、カトマンドゥで、村政府（SVC=Sauru Village Committee）の人々にツラチャンさんを交えて話し合いが重ねられ、すでに緑化協力が開始するに至りました。

**苗場と仕事場の建設、着工へ**  
真冬のサウルは強風が吹きすぎ、極度の乾燥状態とともに、改めて厳しさを痛感させられました。この中で現地を再検分し、苗場と仕事場の着工がきました。

苗場は、周辺一帯の苛酷な条件で良く活着する苗木を育てる上で、キー・ポイントです。さしあたって、使用可能地 2.5ヘクタールの内、外周30m×30m = 900平方mを、巾60cm、高さ1.5mの石垣で囲います。石垣は強風を避け、動物の害を防ぐために不可欠です。

最初は、このミニサイズの苗場を生かすことから始まります。

同時に、安定した、長期持続の仕事ができるよう、仕事場（宿泊兼用）を苗場のすぐそばに作ることになりました。1階建てながら、村の人たちや訪問者多数の寄り合いができるよう 160平方mの広さがあります。

直に工事を担当する石工さん、大工さんたちが、「良いのを作るぞ！」と固い握手を残してくれました。

以上、約定は1月。2月15日着工の知らせを受けています。

治水用の蛇籠は11カ所、延べ109m  
昨年合意する時点でも、村の長年のニーズとして、村を貫流してカリガンダキに注ぐタマ川の治水が強調されました。住居、農場、緑化要地のすべての安全のために、この暴れ川の治水は必要不可欠です。インフラストラクチャとしての蛇籠（ギャビン）の設置に協力します。

激流が走り下りる川沿いに第1期として11カ所を確定（延べ109m、巾2m、高さ2m）。



この人たちとの協力開始（昨年視察時）。

石塊をネットする鉄線の搬入、購入方法をもっとも有利になるよう未だ模索中ですが、4月着工のはこびとなるでしょう。

モンスーン入り前に育苗着手へ  
3月には、今回2度目のサウル訪問、蛇籠工事の当面の最終方針をきめ、その着工準備の完了、苗場、仕事場の完工準備を完了します。4月から6月のモンスーン入りにかけて、育苗の試行に着手できることを願っています。

詳細は3月中旬以降、お伝えすることができるでしょう。

これまでご協力、ご支援くださった多くの方々に深い感謝の気持ちをもつて。 2月26日 カトマンドゥにて

## 広がる黄土高原への緑化協力

鷹匠中学校生徒会のとりくみ

善は急げ、とか思い立ったが吉日、とかいいますが、神戸市立鷹匠中学校と姫野文具店の協力がまさにそのとおり。読売新聞にGENの黄土高原緑化協力の記事がのった次の日には、姫野操子さんから協力の申し入れをいただいたのですから、電光石火の早業です（詳しくは前号）。

ところが鷹匠中学校にパネルをおいてもらおうと思ったらやたら忙しくなって、やっと時間ができると学校はテスト（なつかしくもおぞましいこの響き）。というわけで、2月16日によくパネルを届けてまいりま



した。

住宅地の中の学校で、姫野文具店は道路を隔てて2軒隣。姫野さんは

生徒みんなと顔見知りのようで、高校の面接試験の様子を報告に来る生徒もいるほど。この日は生徒会役員をわざわざ呼び出してもらって、校門の前でパネルといっしょに写真におさまってもらいました。パネルは生徒会室の前に掲示してもらうことになりました。

緑化協力もボランティアも特別なことじゃない、毎日のつみかさねなんだ、と実践している鷹匠中学校のみなさん。それを支える姫野さん、先生方。どうもありがとうございます。これからもよろしく。

# GENの強化に力を！

## 会員になってください。

現在GENの会員は約400人。残念ながらこの1年間はあまり増えていません。各種の助成が決まるたびに、最初に郵政省のボランティア貯金からの助成が決まった時清田さん（昨年5月の黄土高原緑化協力団団長）に言われた「助成金と同じぐらいの金額を自力で集められない」という言葉がずっしり重く感じられます。

GENの自己資金とはみなさんの会費・緑化基金にほかなりません。ひとりでも多くの方に会員になっていただき、GENに力を貸してもらえたたら……。お金だけでなく、知識・技術や労力などあらゆる面で

みなさまのご協力をお願いします。

### (1)会員になってください

みなさまの会費は活動の源泉です。

### ●会費（1口1年分）

一般会員	12,000円
------	---------

家族会員（2人めから）	6,000円
-------------	--------

学生会員（高校生以上）	3,000円
-------------	--------

ジュニア会員（小中学生）	1,000円
--------------	--------

団体会員	12,000円
------	---------

賛助会員	100,000円
------	----------

（以上の会費には会報購読料が含まれています）

### (2)会報を購読してください

会報の購読者が増えることは、GENのサポーターが増えること。周

囲の方にもすすめてください。

1年分（送料とも） 2,000円

(3)緑化基金、運営基金にご協力を  
金額は問いません。ネバールや黄  
土高原ではコーヒー1杯分でも、驚く  
ほど役に立ちます。協力地域など希  
望があれば、ご指定いただけます。

### (4)スタッフになってください

会報の編集、「自然と親しむ会」の企画運営など、いつでもみなさんの知恵と力を歓迎します。

### (5)ご意見をお寄せください

感想、情報、要望、不満、なんでも遠慮なくどんどんお寄せください  
(会報に掲載することができます)。

## ワーキングツアーいよいよ出発

### 緑化本番の黄土高原へ

西留郷にヤオトンが建つ！94年春の黄土高原ワーキングツアーがいよいよ出発します。凍てついた大地がようやく溶けて植林も始まるこの時期、まだちょっと寒いけど、素晴らしいツアーになることでしょう。

今回のメンバーにはツアーコンダクターや中国語講師の方もおいで、心強いかぎりです。

### 富士火災ふれ愛俱楽部から

世は不景気と言いつつも、ボランティア、フィランソロピーの動きはとぎれたわけではありません。GEN会員の森井正人さんが勤務する富士火災海上保険には、ふれ愛俱楽部というシステムがあります。一人毎月100円ずつ積み立て、さらに会社が積立金と同額を拠出し、様々なNGOに寄附をするというものです。この度GENも20万円の寄附を頂きました。

バブル全盛期にあちこちで話題だったフィランソロピーが、一時的な流行ではなく、今なお続いているのは関係者の熱意のたまものでしょう。

高見世話人は一足先に出発して、緑化協力資金の受渡しや、新しい協力地の検討などにあたります。

ツアーの本隊は3月24日に燕京号で神戸を出発して26日に天津着、車で北京へ、そして夜行列車で大同に入ります。27日からしっかり1週間、現地でヤオトン起工式参加・緑化活動・交流の後、雲崗の石窟や万里の

長城見学、北京観光の予定です。大阪帰着は4月6日。おみやげ話が楽しみです。参加メンバーは次のとおり（敬称略）。

桶田美保・小沢千代子・重光加代子・中井美和子・夏潔好・馮詭打它繁彦・鷗田光雄・杉村正彦・高見邦雄・竹中隆・富澤隆思・富澤勇武

### 恒山森林公園見本園へ 挿し穂・種子の協力

渾源県に新しく建設中の恒山国家森林公園の見本園に植える樹木の種子・挿し穂を、さまざまな方面からご協力いただき、3月に出発するワーキングツアーが現地に届けることになりました。お願いするのが遅く、昨秋の採取時にまことにあわなかったのですが、鳥取大学の橋詰隼人さん、環境庁新宿御苑管理事務所、東北大学付属植物園の遠田宏さん、大阪市咲くやこの花館の立花吉茂さん、宝塚市の阪上重夫さん、岸和田市の川上四郎さん、神戸市の和田邦孝さんなどのご協力で、一部の草を含め、60種類以上になりました。本当にありがとうございました。これからも継続しますので、今後もよろしく。

★ワーキングツアー報告会を4月25日（月）に予定しています。詳細は次号に。

# 北海道・アイヌモシリの森林回復に向けて

昨年9月（緑の地球19号）より会報でおしらせし始めた北海道での森林回復のための、ナショナルトラストを中心とした活動の準備が着々と進んでいます。

3月19日には神戸で、北九州の木戸さん、関東の新井さん、鶴沢さんを迎えて近畿各地の関係団体による第2回の準備会をもちます。

また5月中には賛同者のお名前もそえて正式に活動を開始する予定です。この運動の大きな柱の一つに、自らを“北海道アイヌ”と称した故貝澤正氏の遺志をつぎ、拡げていくという事があります。貝澤正氏については『アイヌ　わが人生』（岩波書店）に詳しいのですが、今回、関東在住で正氏の長女の新井さん、次女の鶴沢さんがお父さんのおもいでと山へよせる思いを書いてくださいましたので掲載します。この思いをうけとめて運動のしっかりととした土台にしたいと思います。

（武田繁典）

## 豊かな自然林の復活を 新井幹子

「沙流川沿いの山だけでも、なんとか自然のまま残したい」

「ナショナルトラスト運動でなんとか出来ないものだろうか」

これらの言葉は入院中の父がよく言っていたことでした。それを聞いても私は「無理じゃないの」と気のない返事しか出来ませんでした。何年か前から、全国的にナショナルトラスト運動が盛んになっている様でしたが、二風谷周辺で、そういう型の運動を始める大変なエネルギーと私自身の非力を考えると、私はどうしても消極的になってしましました。せめて「何かの方法や手立てがないか」と調べてみたり、考えたりしなければならなかつたのにと、残念に思っています。

私が北海道へ帰ると必ず、父は亡くなる数年前に手に入れた山へ私を連れ行きました。私は、山の見方がまったく分かりませんから「こんな山のど



亡くなる前、若い頃植えた林に立つ貝澤正さん（新井幹子さん提供）

これがいいの」といつも聞きます。すると毎回、同じように「山は北向きが一番いいんだ。木目も細かくなるし、伸びもいい」と言います。そして、一本、一本の木について説明が始まるのです。しかし、私はほとんどその場で忘れています。とりわけ、父はカツラの木が大好きでした。東京にもカツラの木があると聞き「小石川植物園」まで一緒に行つたこともあります。

父は、訪問者の誰彼となく「山、見に行くか」と誘います。春は、残雪の中に一番先にフクジュソウが咲き、その後カタクリ、ニリンソウ、エゾエンゴサク、また、あの辺でも珍しくなったザゼンソウと咲いていきます。夏は蚊、アブで閉口しますが、秋になると、山ブドウ、コクワ（サルナシ）が実ります。そして、同行者にも同じ様に木の説明をします。その時の嬉しそうな父の顔を見ると、関心のなかった私まで「木」の良さを知らなければ、という気持ちになったものでした。

何年か前に私の住む埼玉に父と母が来たときに、日光湯元温泉に行ったことがあります。そのホテルの周りには直径1メートル位の落葉松（カラマツ）が何本も高くそびえていました。「こんな太い落葉松は北海道にはないな。みんな切ったからな。落葉も太くなつたらいいもんだ」と言いながら何度も幹を撫でたり、腕を回して計つたりしていました。そして「札幌にさえ、太い木があるのに二風谷にはない」と嘆いていました。

それが遺言の「あの山の木を200年切つたらだめだ」との言葉になって私たちに残されたのでしょうか。そんな父の「アイヌが豊かに暮らしていた時代の原生林を復活させたい」という思いを、何とか実現に近づけたいものです。「緑の地球ネットワーク」が北海道二風谷の自然に目を向けて下さり、活動を開始して下さることに、私は歴史的な意義を感じています。

1994年2月25日

## 山と父

鶴沢道子

“父ほど山を愛した人はいない”と私は思っている。山を愛したなどと言うと、アルビニストのように思われるかもしれないが、そうではない。人間が原始の時から自然の中で生きてきたように、素朴に山を愛し、山の恵みを喜び、山を育て守ってきた人であった。

父亡き今、ふいに私の脳裏に父のおもかげがよみがえってくることがある。その時の父は、少々薄汚れた帽子をかぶり、首に手ぬぐいを巻き、これも又くたびれきった野良着をまとい、目だけは若者のようにいきいきした老年の顔である。私は父をただの一度もハンサムな人だと思ったことはないけれど、目が好きだった。深く物事を見つめ考へているような目が好きだった。

私は、幼いころ、大人たちが山に入って下草を刈ったり、植林といって苗木を植える山仕事をするそばで遊んでいた。大人たちには、辛い労働かもしれないが、子供の私には楽しいひとときだった。そこで父が、小さな苗木が大きく育つ事を、山がりっぱになる事を教えてくれた。大学生のころには、父といっしょに、山で下草刈りをしながら、下草刈りの必要なわけを教えて



もらった。そのころ小さかった木が、今ではずいぶん大きくなつた。父が山を育てたあかしの一つである。

今でも忘れられない父との思い出の一つに、父との山歩きがある。私が30歳を過ぎたあるお正月の日、父からか私から言い出したか忘れたが、二人で山に行く事になった。山といつても、裏の山である。新雪が太陽でキラキラ光っていて、とても美しかった。幼いころザリガニを取った小川をわたり、クリを拾った林をながめ、私と父は山をどんどん登っていった。

「ここから向こうが、三井の山だよ」と父の山と三井の山との境界線まで連れて行って教えてくれた。境界線に向

こうには広大な三井の山々が広がっていた。昔、祖先たちが自由に狩りをして山の恵みで生活していたのにシャモが来て、アイヌの山を奪ってしまった不条理を二人で話しながら歩いた。

一歩一歩、雪をふみしめて歩く、重い口調の父から父の怒りが伝わってきた。

次に父が晩年、多額の借金までして買い求めた山にまつわる思い出である。父はひまさえあれば、バスに乗って山の手入れに行っていました。私たち娘が帰郷する度、その山に嬉しそうに案内してくれた。

「この山を原始の姿のままの山にして、永久に残したい」と口ぐせのように言っていた。病にたおれた後、「シ

ヤモは悪いわ」と病床でしほり出すような声で言っていたのを悲しみと共に思い出す。

父の晩年の夢である山を昔のような姿で残したい、二風谷ダム建設に対する怒り、アイヌの復権にかけた情熱を娘として、どう受け止め引きついでいくか、私の課題は重い。父が山を愛したように、私も山が好きなのだから。

### 日本ビジネススクール専門学校 パネル展開催

昨年もエコロジーバッジ等の売上の寄付でご協力をいただいた日本ビジネススクール専門学校デザイン学科の作品展が、2月26~28日大阪国際交流センターで開かれました。「国際交流とエコロジーII」をテーマに、モニュメ

ントやポスターなどの作品展示、また今回は「エコロジーと美術・デザイン教育」と題したシンポジウムも行われました。

展示コーナーの一画にスペースをいただき、「黄土高原に緑を」のパネルを展示。日頃の学習、制作と国際協力の実践例を並べることでテーマに対する目的を明確にできたと好評でした。

また今回も、チャリティー販売の売り上げを寄付していただきました。ありがとうございました。



## 山西省の自然

石原忠一  
(92年縁化協力団団長)

### (18) 五台山(2)

1961年から5年間、駐日米大使をつとめたE.O.ライシャワーは、東京生れのハーバード大学東洋学の教授で、1955年に"Ennin's Diary"の英文訳を完成出版しています。

マルコポーロの「東方見聞録」よりも、玄奘三蔵の「大唐西域記」よりも、

慈覚大師円仁の旅行記「入唐求法巡礼行記」を、「円仁の波乱に富んだ経験について、一日一日克明に記録した日記は世界史における当時のユニークな文献である」と評価し、とりわけ、「記述の詳細さと、生きた色彩、溢れる人間的な記録」として絶賛し、

世界の三部旅行記と世にひろめました。

さて1,154年もの昔、840年4月28日円仁が初めて中台の頂を遠望して感涙を流してから60日間の五台山での日々。高僧との問答・聽講、未だみぬ経典の書写、儀式の参観。そしていよいよ5月5

日、麓(1,700m)の花巖寺を発って中台の頂へと上り、北台、西台を顔前に、右方はるかに東台頂を、さらにうしろの方角に南台頂を展望して、

“五台は高く衆嶺の上に顯出す。五台の周囲は五百里(1里=約560m)、外には便ち高峰あり、重々谷を隔て、高起し五台を巡りて墻壁の勢を成し、その峰は樹木鬱茂す”。

森林限界をこえた3,000m級の五台の頂上はいずれもお花畠になっていましたが、これをとりまく峯々と谷間は鬱蒼たる森林におおわれていると、まことに見ごとなNoteです。

写真は、1992年5月9日、巡礼の基地、台懷鎮(1,600m)の龍泉寺の名泉から、中台方面をみた景観です。成長の早い楊樹(Populus)が無造作に植えてあります。こここの森林の復元のためにも、近くの広い山麓の斜面に「樹木園」が開設され新しい名所になろうとしていました。



# 黄土高原は緑になる！

GEN世話人 高見 邦雄

黄土高原の緑化について話すと、どうしても困難さのほうが先に立ってしまいます。

写真1枚とりだしても、まったくといっていいほど木のない山、侵食谷にきざまれた段々畑、茶一色といつていい風景をみれば、だれだって、こんなところの緑化ができるんだろうか、と思われるでしょう。

そのうえ一帯の年降水量は400mm前後で、しかも夏の一時期に集中します。それだけで「樹木は無理だよ、草原がいいところじゃないかな」とアドバイスしてくださいる専門家も少なくないんです。標高は最低でも1,000mがあり、冬は零下20~30℃に下がるといえばおさらでしょう。

「なんとムダなことを！」と思われ



まっすぐ伸びる落葉松。樹齢40~80年。

では困るので、今回は「黄土高原の緑化は可能ですよ、黄土高原ももとは緑におおわれていたんですよ」というたしかな証拠をみてもらいましょう。

大同市から南西に直線距離で200キロといったところに芦芽山自然保護区があります。山西省で最大といわれる森林の広がりをみてびっくりしました。

この山は標高2,784m。訪れた9月15日でも、早朝の山頂は氷点下です。

山頂から周囲をみまわすと、どの山も岩石むきだしの頂上ちかくまで、森林がはいあがっています。ブルーがけているのはトウヒ、黄色っぽいのはカラマツです。

林のなかにはいると、意外に明るく感じます。そう高くないところには、

下草がけっこう生えていますし（高いところはコケ）、少数ですがカバ、ヤマナラシ、ヤナギなどの広葉樹もまじっています。

土は黒々と肥え、湿りけをもついて、驚いたことに湧き水さえあるのです。

カラマツ、トウヒは気持ちいいほどまっすぐ伸びていて、大きいものは胸高直径50cm近く、樹齢40年~80年のものが多いようです。大きな岩の上に生え、根っこが岩をだきかかえているものもあります。

でも、これが自然林だといわれても、どこか違和感があります。樹種が少ないのもそうですが、人工造林のように大きさがそろっているのがどうも気にくわない。

そのうちに樹齢数百年と思われる古木をみつけました。枯れた株が多いのですが、たまたま生きているものもあります。ところがこれがそろいもそろって、奇妙な形にねじまがったものばかり。葉っぱをみなければ、カラマツだなんてとても信じられない。

ここから私の推理がまじります。おそらく80年ほどまえ、この一帯で森林の大破壊があったでしょう。それは人為的なものだったでしょう。残された古木がみな、人が使うにも運ぶにも、役に立ちそうにない変形樹ばかりであることがそれを教えています。日本でも、時代をつないで生きてきた古木には、変形樹が多いでしょう。

80年まえというと、清朝終末の大混亂期に重なります。そして、大破壊を生き延びた、わずかの古木が種子を飛ばし、しだいに森林を復活させ、1949年以降の新政府が、黄土高原にめずらしいこの森林を全面保護する幸運にめぐりあった。ということでしょう。

この自然保護区には、褐馬鶲（ミミ



山頂近くまで緑がおおう。（芦芽山自然保護区）

キジ）をはじめ、たくさんめずらしい野生動物が生息し、保護されています。

渾源県の南山区に植えられたカラマツは、30年でりっぱな森林になり、周囲に種を飛ばして、自生の苗を育てつつあります（第21号表紙）。

自然の力に、人がちょっと手を添えることによって、黄土高原でもたしかに森林はよみがえるのです。

あつ、そうそう。年降水量400mmだと森林はむりというのが定説のようですが、黄土高原にりっぱな森林が育つのはなぜでしょう。緯度、標高が高くて、雨のない期間の気温が低く、蒸発量の少ないと幸いしているというのです。

気温が低くて、霜のない期間が90日~120日しかないと聞くと、それはすべてマイナスだと思いがちです



この木が種をとばして森をつくった。

が、自然のバランスというのは、ほんとに微妙で、おもしろいものですね。



今年に入ってから何度か、GENの活動が日経・読売・朝日などの新聞で紹介される機会があり、様々な反響をいただきました。前号・今号とご紹介している神戸市立鷹匠中学校と姫野文具店の協力もそのひとつです。

また、日中戦争の末期（1944年～45年）、渾源県周辺の応県あたりに駐留しておられたSさん（農中市）、Nさん（高槻市）からもお電話をいただき、お会いしてお話を伺いました。GENの活動と共に感して、戦友会の方々に紹介していただき、こんなお手紙をくださいました。

#### 前略

過日梅田で初会合には御多用の中をわざわざお出かけ頂き種々御苦労の容子を承り感動しました。御職業の傍らボランティアで国際的なお世話をされている「緑の地球ネットワーク」の方々に心より有難うの御礼と頑張って！の言葉を捧げます。（後略）

この手紙にそえて、戦友会の方々に送った「趣意書」を同封してくださいました。以下はそこからの抜粋です。

かつて私等は50年の昔、国家の使命で隣国の中国に強引に立ち入り、軍靴でじゅうりんして住民に多大の迷惑をかけた事実は否定出来ません。大東亜戦争初期の1938年頃当地を占拠した有名部隊の一部が、世に言う三光作戦（略奪・殺人・放火）の極悪を行った村落だったとのことです。ネットワークの人々が当初現地入りして折衝に最大の障害となった事が想像されます。

現在の住人は過去の出来事は終生忘れ難いが今は過去のこととして、現代に目を向けて遠くの日本の有志が吾々に手をさしのべてくれるなら、今後友好的に協力の上、行動を共にする事を約束して目下着々進捗しています。忘

れてならないのはこの事業の陰にあって数々の辛苦をのりこえて尚この後も永く活躍されるネットワークの方々の健康を祈ると共に深甚なる敬意を捧げずには居られません。（中略）

たかが黄塵と言うなれば、塵も積もれば山の譬え、人体の心肺に心配なしとは言い切れません。今年も又来年も再来年も季節風に乗って飛来してくる事でしょう。その根源たる渾源を植林によって育成防止して地球環境を良くし、子孫繁栄の為積極的速やかに事業推進するのが焦眉の急ではないでしょうか。

こんなお便りもいただきました。

**打它繁彦さん（福井県・主任運転士、春のワーキングツアー参加予定）**

#### 拝啓

突然のお手紙を差し上げます失礼をお許しください。

実は日本経済新聞の記事を読ませていただき、中国の黄土高原の緑地化に取り組んでおられる「緑の地球ネットワーク」を知り、さっそく新聞社に問い合わせました。

私は、福井県敦賀市の中心部よりも10キロメートルぐらい山間部に住んでおり、四方を山に囲まれ、雪は少し多いですが静かな所で、四季を通じ、山山は目をなごませてくれます。また先祖から受けついだ山林もわずかですがあります。祖父や父と植林した木が今20年・30年たって立派な木に成長しました。しかしここまでが大変で、その間下刈り、雪によって倒れた木を毎年春に起こす作業、枝打ち、間伐と多くの手間がかかります。しかし手を入れれば、入れただけ木はちゃんと成長することによって、私達に報いてくれるのです。

私は会社勤めをしながら、休日を利用して、このような作業を気分転換のつもりでやってきました。皆様方のご苦労もよく理解できます。

私は以前、地元の友好訪中団の一員として友好都市の杭州をはじめ北京、西安と行ってまいりましたが、以前に

も増して中国に親近感を持ちました。漢字をはじめ日本の文化・伝統は多くを中国から学びそれを改良したもので、その源は中国です。

皆様方の活動は速効性のあるものではありませんが、10年後、20年後また子孫の代に大きく花開くものだと信じます。

黄土高原に緑が回復しそこに住む人が、あふれる緑の中で豊かな暮らしができる事を祈らずにはおられません。（後略）

少しずつ、確実にネットワークは広がっていきます。同じように、黄土高原の緑も広がりつつあります。

#### 永続可能な発展めざして 神戸で研究交流集会

ブラジルでの地球サミットで提唱された「永続可能な発展（Sustainable Development）」。いまひとつ意味のよくわからないこの言葉を、その発展によって維持されるべき「永続可能な社会」に置き換えて考えてみよう。そんな集まりが、内外から多彩なゲストを迎えて神戸で開かれます。

【ステイナブル・ソサエティ】

全国研究交流集会】  
3月19日（土）兵庫県民会館  
開会、シンポジウム「ステイナブル・ソサエティを求めて」、レセプション

3月20日（日）兵庫県民会館ほか  
基調報告「地球環境と人間社会の危機」、分科会「ライフスタイルをどう変革するか」「21世紀人の集い」など8つ、特別企画

3月21日（月）兵庫県農業会館  
全体討論・閉会  
・原則として事前参加申込みが必要ですが、当日参加も可能です。一般参加費3,000円、学生2,000円、レセプション別。詳細は下記までお問い合わせください。

S S 全国研究交流集会実行委員会  
650 神戸市中央区北長狭通2-6-2  
華蘭ビル703号  
TEL 078-333-6753 FAX 078-333-6754

# ネパール緑化への思いあらたに ～ひとまず帰国しました

GEN世話人 東間 徹

ネパールでの一年間の農業研修ということで、昨年末出国しましたが、第一回のトライとしてはわずか2か月で帰国せざるをえないはめに終わりました。ご支援いただいた方々には大変申し訳ないなあと思いつつ、しかしこれでネパール緑化への私なりのアプローチのしかたを変える必要があるとは考えていないのです。むしろ、今回の経験で普通の日本人が海外で何かやろうとするには、失敗を繰り返す覚悟が必要で、成功させたいという思いが幻想を生みやすいことを知りました。私の場合、今回は一般的な研修ということだけに、本格的な緑化活動を今後行う上でぶちあたる障害やそれに伴う失敗がどの程度大きなものになるかということが予測できるようになります。

私が現地で訪れた近藤亨さんの農場

は現地の人びともたくさん働いており私にとっては好条件でした。しかし現地で1年間滞在するには特別なビザを政府に申請する必要があり、農業技術者でもない私が経歴を誇称しなければならない問題がありました。また日本を出国する直前になって高1の息子がネパールに同行せざるを得ない個人的事情が生じたこともあって、長期滞在は条件として無理になってしましました。お世話いただいた近藤さんには大変迷惑をおかけしたのですが、ネパールが逃げだすわけではありませんので、私の身辺をもう一度整えて長期にネパール緑化にかかる条件をつくる以外にないと考えました。

幸い現地の青年たちと時間をかけて交流できる機会があり、私もできそうな等身大の緑化プランは可能だという確信を得ることができました。ネパ

ールに限らず、どの国でも外国人が長期滞在するにはそれなりの長い経験の蓄積が必要なことは常識でした。近藤さんにも20年近くの現地での経験と研鑽の上に活動をしておられるわけで、そうした人びとの努力にいわば乗っかる形で現地滞在を考えたことは反省すべきだと思います。近藤さんの農場へは今後もお邪魔するつもりでいますが、長期研修については近藤さんとも話し合って中止することにしました。

私としてはご支援いただいた皆さんのご期待に応えるためにも、ぜひとも自分なりの努力を積み上げていくつもりです。今年の9月ごろには再度現地を訪れ、ネパールの青年たちとの協働緑化のための基礎を固めてまいりたいと考えています。

## 編集後記

マッキントッシュ初お目見え、いかがですか。とはいっても、事務所のマックは間に合わず、今回の導入にあってお世話になっているところでの編集でした。次からは独立でやらなくては。どうなることか……。DTPに興味のある方はご連絡ください。編集を手伝っていただかず、マックを教えていただけるととてもうれしいです。

最近「月に歌うクジラ」という本を読みました(筑摩書房)。タイトルのクジラのほかに、コウモリ、ワニ、ベンギンともりだくさんこの本、一番興味深かったのはコウモリの話です。凶悪そのもののイメージの吸血コウモリが実は利口でやさしく、義理堅い(?)というのは驚きでした。コウモリはとてもデリケートで、ひとなつこの種類もいるそうです。なんだか、親近感がわいてきますね。

どこからともなくただよってきたいい香りに辺りを見回すと、沈丁花が陽射しの中で咲きはじめしていました。弥生3月、もう春です。(東川)

## 大阪自由学校 「ぼちぼち」開講

国連が採択した「子ども権利条約」の理念に基づき、市民参加の国際協力活動を行うNGO「国際子ども権利センター」では、大阪自由学校「ぼちぼち」を4月から開講します。

前期連続講座(94年4月~9月)

★夢かうつつ?大きなお金の使い途  
定員:25名

後期連続講座(94年10月~95年2月)

★暮らしの中から世界が見える  
定員:25名

通年講座(94年4月~95年2月)

★調査研究入門ゼミ  
定員:15名

会場・日程・費用等詳細は下記まで。

【国際子ども権利センター】

531 大阪市北区本庄東1-18-14

アシスト90 401号

TEL.06-375-5466 FAX.06-371-7804

受付:火曜から土曜の午後1時~6時

## はっさく、ぶんたんを どうぞ

「土佐の柑橘のいろいろをお楽しみください」とおなじみ高知の田中さんから無農薬/低農薬、有機栽培のはっさく、ぶんたんの案内が届きました。

はっさく(無農薬、有機栽培)

10kg	3,000円
------	--------

土佐ぶんたん(低農薬、有機栽培)

5kg 2L 10玉前後	2,800円
--------------	--------

5kg L 12玉前後	2,300円
-------------	--------

5kg M 15玉前後	1,800円
-------------	--------

(10kg箱もあります。値段は直接お問い合わせください) \*送料別途

出荷は2月下旬から4月上旬までです。売上からGENにカンパしてくださいますので、「GENの紹介」と添えてください。

[連絡先]田中隆一さん

〒781-74 高知県安芸郡東洋町甲の浦

TEL/FAX(兼用) 08872-9-2500